

インナー大会プレゼン部門 2018 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) タカサキケイザイダイガク	フリガナ) チイキセイサクガクブ	フリガナ) サトウキミシ
高崎経済大学	地域政策学部	佐藤公俊ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
フリガナ) ファイターズ	フリガナ) イグチユウコ	4	無	
Fighters	井口優子			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)

無

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

研究テーマ (発表タイトル)

高チャリの“新たなカタチ”

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

私たちの研究テーマは「高チャリ」についてである。「高チャリ」とは、高崎市の市内回遊性の向上を目的として開始された取り組みである。本研究では、実地調査を通じて明らかになった「高チャリ」のシステム設計における問題点について言及する。その上で新たな「高チャリ」のシステムを提案する。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

「高チャリ」は、2013 年 4 月に高崎市の市内回遊性向上と賑わいの創出を目的として開始された高崎駅西口を中心に自由に乗降できる貸し出し自転車である。中心市街地内に設置された 16 か所のサイクルポートで 150 台の高チャリを貸し出し、自由に利用できる。利用時間は午前 9 時から午後 10 時までで、利用範囲内のポートならどこで借りても、どこに返却しても良い。「高チャリ」は 100 円のデポジット制 (利用する前にお金を預け、利用後にお金が返却されるシステム) をとっていて、実質無料で利用できる。

3. 研究テーマの課題

「高チャリ」の課題は、適正利用がなされていないことである。具体的には、次の二点が挙げられる。一点目は時間内にポートに「高チャリ」が返却されないことである。私たちが台数調査を行ったところ、現在運用されている 150 台のうち確認できたのはわずか 3 割であった。

二点目はエリア外で利用されていることである。実際に利用範囲から 2km 離れた場所で「高チャリ」が発見された。また、「高チャリ」の運営主体である商工会議所の方に聞き取り調査を行ったところ、大宮や前橋といった高崎市外で発見されたことが判明した。

これらの課題が発生する原因は、システム設計にあると私たちは考える。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

上記で挙げた課題を解決するために、私たちは「高チャリ」の新たなシステムを提案する。新たなシステムを設計するにあたって、以下の 2 つの仮説を立てた。1 つめは高チャリを放置しても 100 円の損で済むため、不正利用されるのではないか、2 つめは利用エリアが狭いことが、エリア外での利用につながっているのではないかというものである。これらの仮説を立証するために、アンケート調査を行った。この調査で得られた結果を踏まえて、①利用範囲の拡大、②デポジット増額、③登録制の導入、の 3 つを組み合わせたシステムを提案する。具体的に、利用範囲は高崎駅西口から 3 km 圏内と東口の一部の範囲に拡大、デポジット額は 100 円を 500 円に増額、登録制に関しては、会員登録制を採用し、高チャリの鍵代わりとなる「高チャリ Card」の発行を行うものである。以下、「高チャリ」の利用方法の手順について述べる。

- (1) 「高チャリ」を利用する前にインターネット又はインフォメーションセンターの窓口にて個人情報を入力し、会員登録を行う。
- (2) インフォメーションセンターで 500 円と引き換えに「高チャリ Card」を発行する。
- (3) 「高チャリ」を利用する。

この際、「高チャリ Card」が鍵代わりになるため、「高チャリ」にこのカードを差し込むことでロックが解除され、利用可能になる。また、ポートに自転車を返却することによって、「高チャリ」に差し込んだ「高チャリ Card」を取り出すことが出来る。

※「高チャリ Card」をインフォメーションセンターの窓口に戻却することにより、カード発行時に払った 500 円が手元に戻ってくる。

上記の手順により、「高チャリ」が利用出来る。不正利用（時間外利用等）をした場合には、「高チャリ Card」が反応しなくなり、500 円のデポジットが失効する。再度「高チャリ」を利用するには、インフォメーションセンターで「高チャリ Card の再発行」を行う必要がある。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

私たちは、「高チャリ」に関するアンケート調査を実施した。内容は以下の通りである。

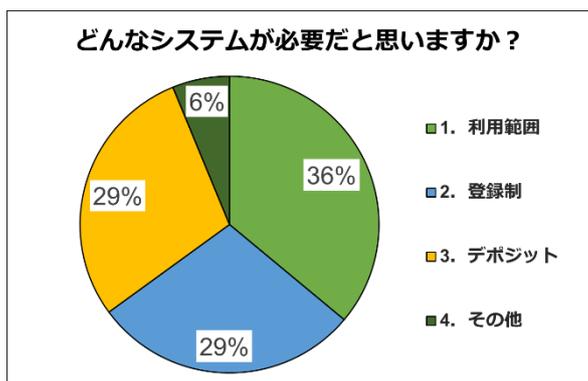
目的：仮説を立証し、新たな制度の提案のため

日時：7月22日 10時から19時

場所：高崎駅西口周辺、高崎市役所前

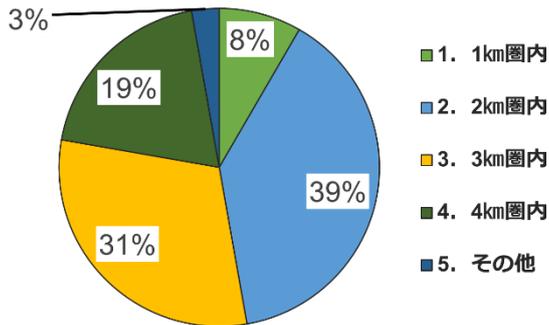
調査対象：サイクルポート周辺にいる人

回答数：61人



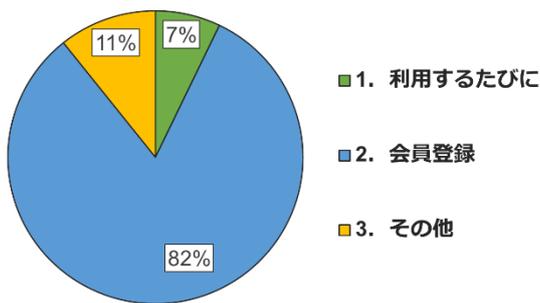
左の円グラフは「高チャリ」に関する新しいシステムを作成する際、「どんなシステムが必要だと思いますか？」という問いに対する回答を示したものである。(1)「利用範囲の拡大」が 36%、(2)「登録制の導入」が 29%、(3)「デポジットの増額」が 29% (4)その他の方法が 6%という結果になった。

高チャリでどこまで行けたら良いと思いますか？



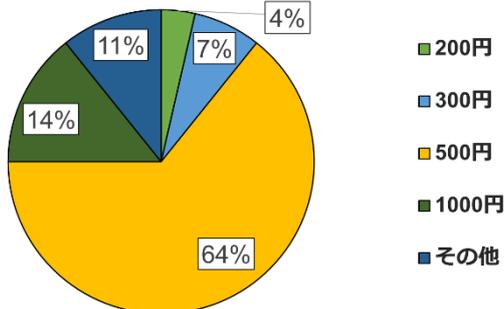
「高チャリでどこまで行けたら良いと思いますか？」という問いに対しては、2km 圏内が 39%、3km 圏内が 31%であり、2 km~3 km圏内が良いと回答した人が 7 割だった。

どのような登録制が良いと思いますか？



登録制を導入するにあたって「どのような登録制が良いと思いますか？」と聞いたところ、高チャリを利用する度に登録を行うと答えた人が 7%、会員登録と答えた人が 82%、その他と答えた人が 11%であった。

デポジット金額はいくらが良いと思いますか？



「デポジット金額はいくらが良いと思いますか？」という問いに対しては、「500 円」と答えた人が 64%と圧倒的に多く、続いて 1000 円（14%）、その他（11%）、300 円（7%）、200 円（4%）という結果になった。

6. 結果や今後の取り組み

本研究から、現時点での「高チャリ」のシステムには、多くの改善点があることが分かった。今後、私たちが考えた新たな「高チャリ」のシステムの導入を運営主体の方々に呼びかけ、提案したいと考えている。さらに今後は、より多くの人々が快適に「高チャリ」を利用できるようなシステムの研究に加えて、高崎の街の将来を見据えた「高チャリ」のシステムを研究していきたい。

7. 参考文献

- 高崎まちなかコミュニティサイクルホームページ <http://www.takasakicci.or.jp/takachari/>（最終閲覧日：9月17日）
- Cyclo city TOYAMA ホームページ <http://www.cyclocity.jp/>（最終閲覧日：9月17日）
- 仙台コミュニティサイクル DATE BIKE ホームページ <http://docomo-cycle.jp/sendai/>（最終閲覧日：9月17日）
- 一般社団法人三島市観光協会 せせらぎレンタサイクルについて <http://www.mishima-kankou.com/benri/rentcycle/cycle01.html>（最終閲覧日：9月17日）
- さいたま市コミュニティサイクルホームページ <http://saitama-ccs.jp/>（最終閲覧日：9月17日）
- docomo bike share ホームページ <https://www.d-bikeshare.com/>（最終閲覧日：9月17日）
- HELLO CYCLING ホームページ <https://www.hellocycling.jp/>（最終閲覧日：9月17日）

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様（株式会社日経BPマーケティング）に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・株式会社日経BPマーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを4ページ以内におさめて、ご提出ください